

2-3

家族との信頼回復にむけて

施設で作ってしまった褥瘡

家族対応

介護統一

社会福祉法人聖風会 台東区立特別養護老人ホーム台東

ユニットリーダー 若林 哲行

介護係長 小林 真紀

東京都台東区台東1-25-5

ユニットメンバー他4名

TEL 03-3834-4435

E-mail taitou@seifuukai.or.jp

FAX 03-5807-5738

URL <http://www.seifuukai.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人聖風会 が母体である特別養護老人ホーム台東は、平成13年6月に開設しました。特別養護老人ホーム50床とショートステイ10床です。その他のサービスは、高齢者在宅サービスセンター、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です

〈取り組んだ課題〉

- 家族との信頼関係にむけての取り組み
- 家族対応、介護統一へむけて、全職員への周知徹底、意識向上
- 褥瘡完治へむけての取り組み

〈具体的な取り組み〉

- 家族との信頼回復にむけて
 - ・ ケアカンファレンスで、家族と細部まで対応方法を決め実践。
 - ・ 褥瘡状態報告
(家族向けの連絡ノートを設置)
(面会時に、褥瘡の状態を報告し実際に見てもらう)
 - ・ 家族からのクレームに対する部署別担当職員決定
- 介護統一への周知徹底
 - ・ 張り紙、カメラ、全体連絡ノートを使用しての介護統一
(車イスの姿勢・寝かせ方・布団の掛け方・クッションの当て方・ベット上、車イス上での足の位置・眼鏡の脱着・義歯装着・口腔ケア・目ヤニの拭き方 等)
(トランス方法は、ビデオ撮影し勉強会にて上映、ユニット職員より個別に指導することで周知徹底する。)
- 褥瘡完治への取り組み
各専門職が一体となり、完治へむけ
全職員へケアプランの周知徹底に努め、プランに沿ったケアを行った。

〈活動の成果と評価〉

褥瘡に関しては、利用者の疾病(糖尿病・高血圧)もあり、完治するまでには、4年半という歳月がかかりました。

一度出来てしまった褥瘡完治への対応は、本当に大変だ！ということを経験を超え、職員全員が学べた事。

一度失ってしまった家族、利用者との信頼を再度、得るためには、誠心誠意の対応と チーム一丸となり職員全員が、分からない事が無いように細かな情報の伝達、把握することの重要性を学べた事と思います。

今回のケースでは、褥瘡完治するにあたり、私たちが学び、得たものは、

褥瘡を絶対に作っては、いけないという事を前提に、その方に合ったケアプランの作成とプランに沿ったケアをチーム全員で行うことで利用者・家族との絆をさらに深められるということを学びました。

今現在も共に暮らしている、全利用者・家族の方へも同じように対応しなければいけないということも学べたと思います。

〈今後の課題〉

- ① 褥瘡を作らない対応
- ② その方にあったケアプランの作成
- ③ プランに沿ったケアの提供(周知徹底した)
- ④ 各専門職間と家族との連携
- ⑤ 職員のメンバーが変わっても継続しケアの提供が出来る環境作り